2 学力向上アクションプランの具体例

横浜市立緑園東小学校
令和元年度　学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

（1）学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
（知）自分の思いをもち、自分の力で積極的に学び続ける子を育てます。 （徳）規範意識をもち、自分も相手も大切にし、自信と思いやりのあふれる子を育てます。 （体）生命を尊ぶ気持ちをもち、自らの健やかな体をつくる子を育てます。 （公）学校や地域に親しみ、まちの一員として積極的にかかわる子を育てます。 （開）様々な人とのコミュニケーションを通じて、広い視野をもち、世界とつながろうとする子を育てます。	主体的に自分の思いを表現していく力 (岡津中ブロック) 「健全な自尊感情の向上」 ・自己教育力　・人間関係力

（2）中期取組目標

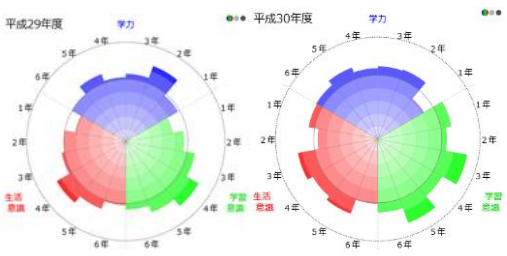
中 期 取 組 目 標
（1）子ども一人ひとりが安心して、自分らしさを発揮し、互いを認め合う学校をつくります。 （2）子どもの主体性を引き出し、自分で学習や生活をつくり高めていく子を育てます。 （3）教職員の指導力を高め、チームとして子どもたちを育てます。 （4）学校運営協議会を基盤として、学校・保護者・地域が連携し、信頼関係に基づいた開かれた学校をつくります。

（3）学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野		具 体 的 取 組
生きてはたらく知		① 個々の思いを大切にした学習課題の設定、学習プロセスを明確にした学習を通して読解力を高める。 ② グループ学習や子どもによる授業進行等を通して、主体的・協働的な学習を追究する。 ③ ICT 活用・プログラミング教育を進める。 ④ 子どもの思いをもとに「横浜の時間」を創造する。 ⑤ どの学力層にも応じた指導の手立てを講じていく。
担当	学力向上部	

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

（1）教科学習の状況



○国語科：話す・聞く能力と知識・理解が伸びているが書く力と低学年の指導については課題である。
○算数科：徐々に成果が出てきているが、考え方の向上など、さらなる授業改善が必要である。
○社会科：思考・判断・表現は伸びているが、知識理解の定着については課題である。
○理　科：どの学年もさらなる授業改善が必要である。

（3）経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

経年変化の状況から、今後一層、自分の考えを表現・交流し、友達と学び課題解決をする授業づくりを行う必要があることが明らかである。その際には、課題に対する考えを、子ども一人ひとりが明確にもつように指導を進めるとともに、各教科とも知識・理解の定着を図りたい。

３ 平成 31 年度　学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
１年	言語能力 情報活用能力 問題発見・解決力 自分づくりに関する力 グローバル化の中で生きる力	○国語科では、身近なことや経験したことなどから紹介したいことを選んで話したり、互いの話に関心をもって聞いたりする姿勢を育む。 ○算数科では、「手を使って考える」をキーワードに、思考や表現の道具として、具体物操作を様々な場面で取り入れる。	○自分の伝えたいことや考えたことを伝えるときに、具体物や絵、図などを用いることで、よりよく表現しようとする姿勢を育む。 ○学びを豊かにするために、多くの「ひと・もの・こと」に積極的に関わりながら取り組むことを意識させる。
２年		○国語では事柄の順序に沿って書いたり、読んだりすることができるように普段の学習から指導を心掛ける。 ○算数では、具体物を用いた活動を通して、数・量・図形についての感覚を豊かにする。	○自分から表現しようとする児童が多くいるので、様々な場面で活躍した児童を褒めて自己肯定感を高められるようにする。
３年		○国語科では、必要なテキストを集めて読み込み、わかったことを文章に表すようにする。 ○算数科では、徐々に成果が出てきている。少人数指導を実施し、基礎学力の定着を図る。	○体験活動を取り入れ、興味をもち、生活に生かせるようにする。 ○学習のまとめを子どもができるように指導する。 ○各教科に英語を織り込み、言語と思考力を養う。
４年		○国語科では、テキストの中から必要な情報を絞り込み、わかったことを文章に表すようにする。 ○算数科では、少人数指導を継続して実施し、基礎学力の定着を図る。	○タブレット端末などのＩＣＴ機器に慣れ親しみ、それらを活用して表現力を養えるようにする。 ○各教科や日常生活に英語を取り入れ、言語能力を高めるようにする。
５年	言語能力 情報活用能力 問題発見・解決力 自分づくりに関する力 グローバル化の中で生きる力 持続可能な社会の創造に貢献する力	○国語科では、言語活動や相手意識を大切にし、既習事項を活用して考えを適切に表現する。 ○算数科では、既習事項をもとに考え、問題解決の根拠にあたる部分を言葉や図式を使って説明できるようにする。	○社会科では、自らの課題を様々なテキストを活用して調べ、表現活動のもととなる知識の定着を図る。 ○理科では、体験的な活動を通して、表現やまとめの場面での指導を丁寧に行い、学力の定着を図る。
６年		○どの教科においても解釈熟考を繰り返し、既習事項を活用して考えを適切に表現する。 ○算数科では、基礎学力の定着を図り、考えを言葉や図式を使って説明できるようにする。	○卒業研究発表をゴールに位置づけ、学びのプロセスに沿った教科横断的な学びを意図的に取り入れていく。
個別支援学級	言語能力 情報活用能力 問題発見・解決 自分づくりに関する力	○自立(朝の会)で話す内容を事前に準備し、みんなの前で内容が伝わるように話す。 ○子ども司会を通して、友達の意見や考えを聞き合い、同意したり共感したりする。	○考えを確かなものにするために、抽象的なものを可視化（文字化・絵図化）する。 ○個々の課題を明確にし、学習形態やツールを工夫して、自分ができる方法で解決する。

専科	**言語能力** **情報活用能力** **問題発見・解決力** **自分づくりに関する力** **グローバル化の中で生きる力**	○算数科では、少人数指導を継続して実施し、基礎学力の定着を図る。既習事項を活用し、図式を用いて説明できるようにする。 ○音楽の歌唱に関しては、音程やリズム、強弱記号に気をつけることを基本とし、その上で歌詞の内容を理解し、曲想にふさわしい歌い方を工夫したり、思いや意図をもって響きのある声で表現したりできるようにする。 楽器の演奏については、基本的な演奏の仕方を身に付け、パートの役割や楽器の特徴を生かして全体の響きの美しさを味わいながら演奏できるようにする。	○図工では、感性や想像力を働かせて自分の思いやイメージをもって主体的につくりだす喜びをもつ。 ○家庭科では、家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な理解ができるようにする。また、それらに係る技能を体験や実践を通して身に付けられるようにする。日常生活の中から問題を見い出して課題を設定し、様々な解決方法を考えたり、考えたことを表現したりして、課題を解決する力を養う。